

# AINO TOWN 食品廃棄 ゼロエリア創出プロジェクト報告書

## (別添)第1回、第2回アンケート の個別結果

---

学校法人藍野大学

2023年2月

## ●食品ロスに関するアンケートの実施

食品ロス啓発活動に取り組む前と後の学生・生徒、教職員の食品ロスに対する意識を把握するために、また、食品ロスを知る・削減に取り組むきっかけ作りのためにアンケート調査を実施した。

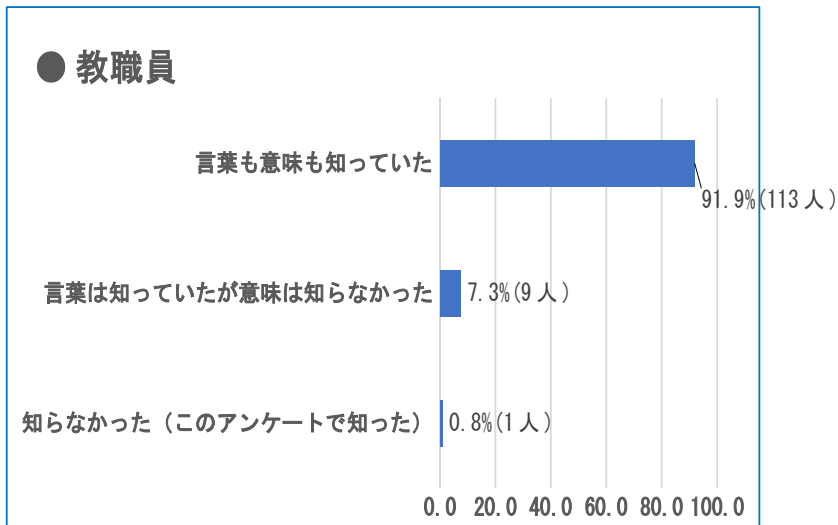
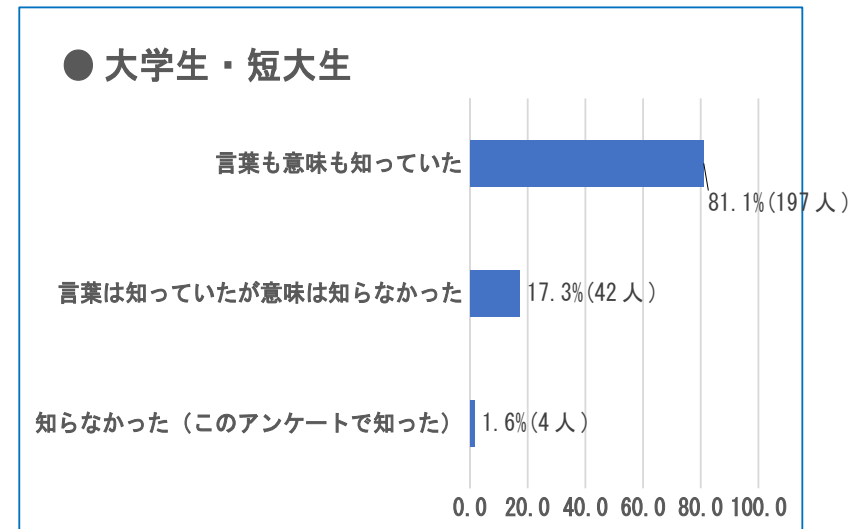
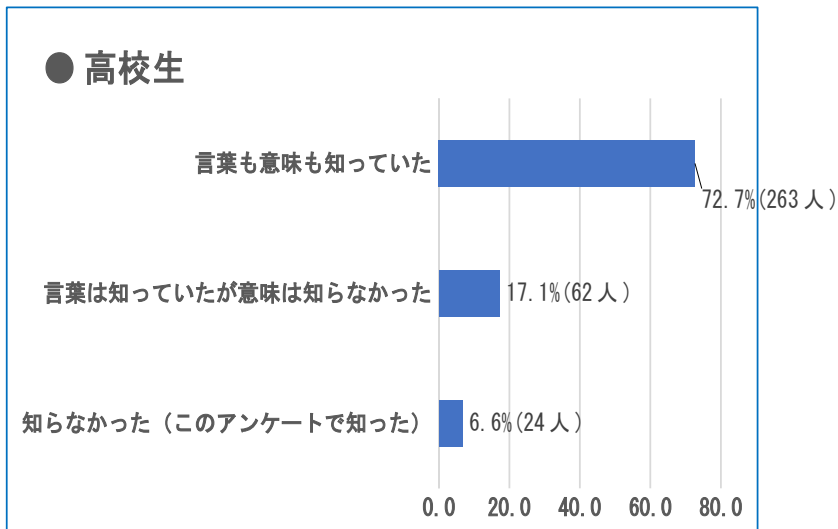
### ①第1回実施期間：2022年6月13日～6月30日（啓発活動前）

回答率 高校生 96.5%（回答者数362人/在学者数375人）  
大学生・短大生 16.0%（回答者数243人/在学者数1,519人）  
教職員 87.9%（回答者数123人/在籍者数140人）

### ②第2回実施期間：2022年12月6日～12月23日（啓発活動後）

回答率 高校生 83.2%（回答者数311人/在学者数374人）  
大学生・短大生 31.7%（回答者数475人/在学者数1,497人）  
教職員 75.7%（回答者数106人/在籍者数140人）

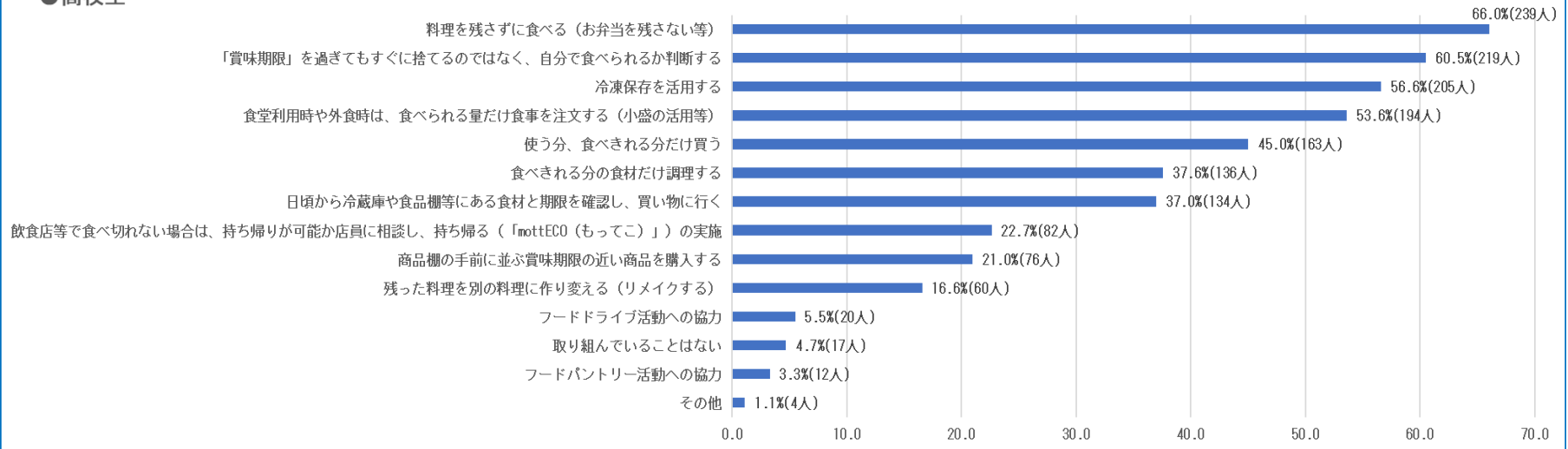
## Q1.あなたは、「食品ロス」という言葉とその意味を知っていますか？



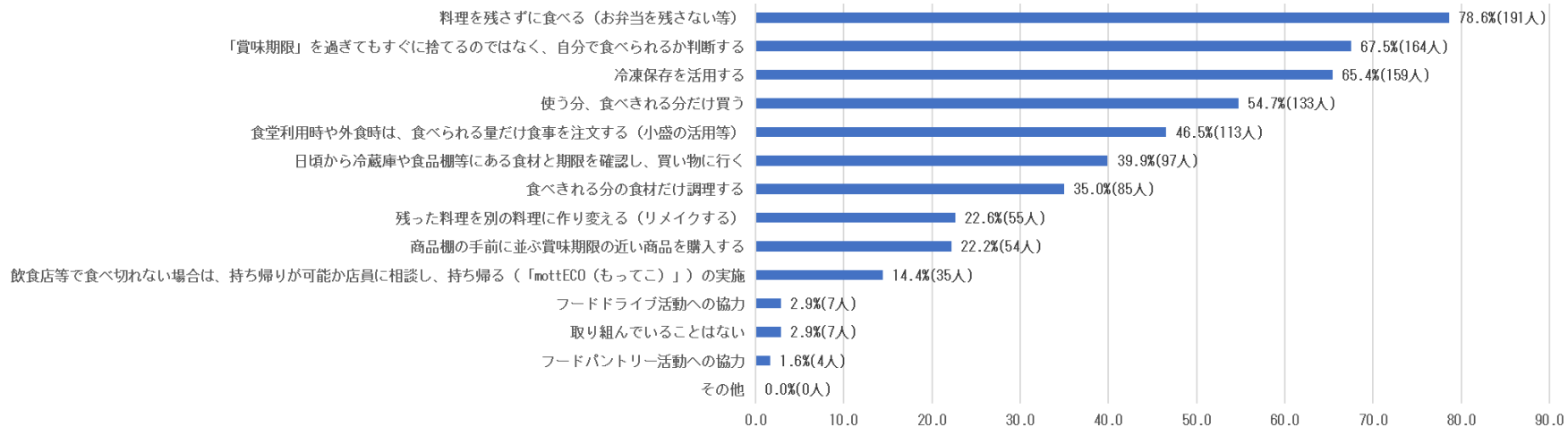
**考察**  
 高校生、大学生・短大生、教職員ともに、食品ロスという言葉も意味も知っていた方が7割以上であった。

## Q2.あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか？

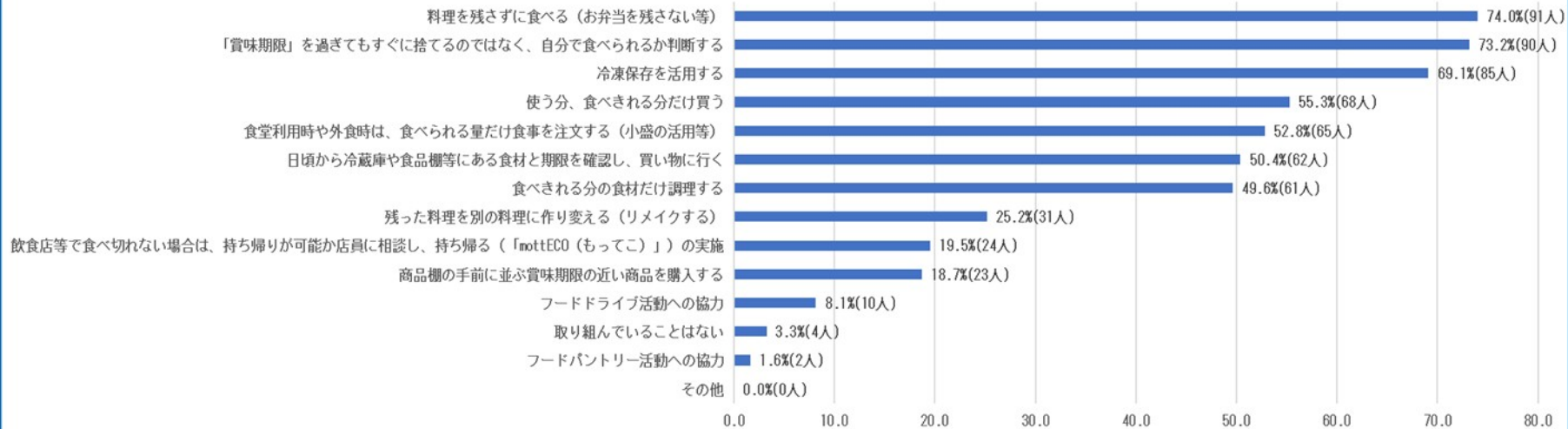
## ●高校生



## ●大学生・短大生



## ●教職員



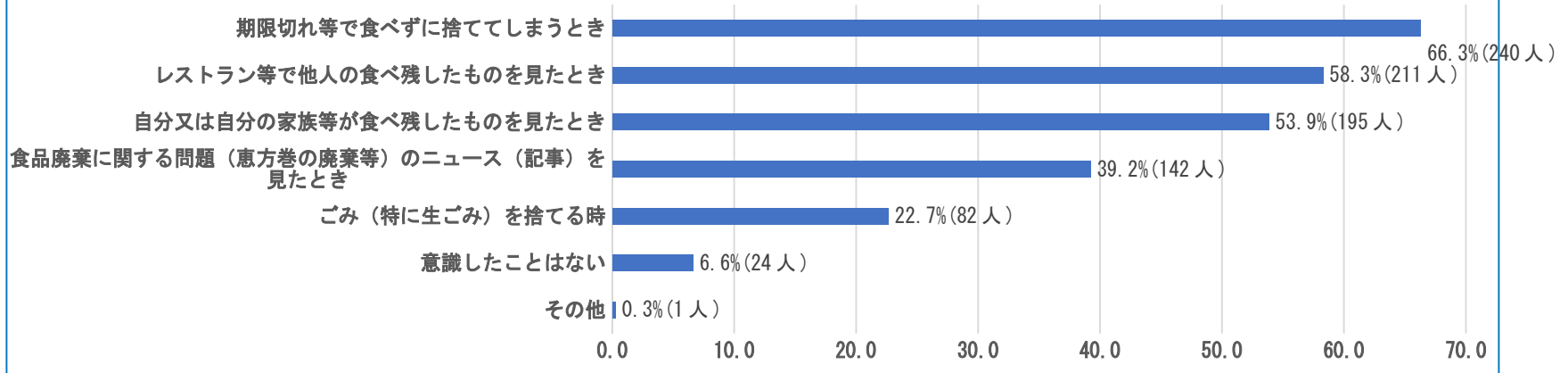
## 考察

高校生、大学生・短大生、教職員ともに生活の中で手間をかけずにできそうなことは実施している。

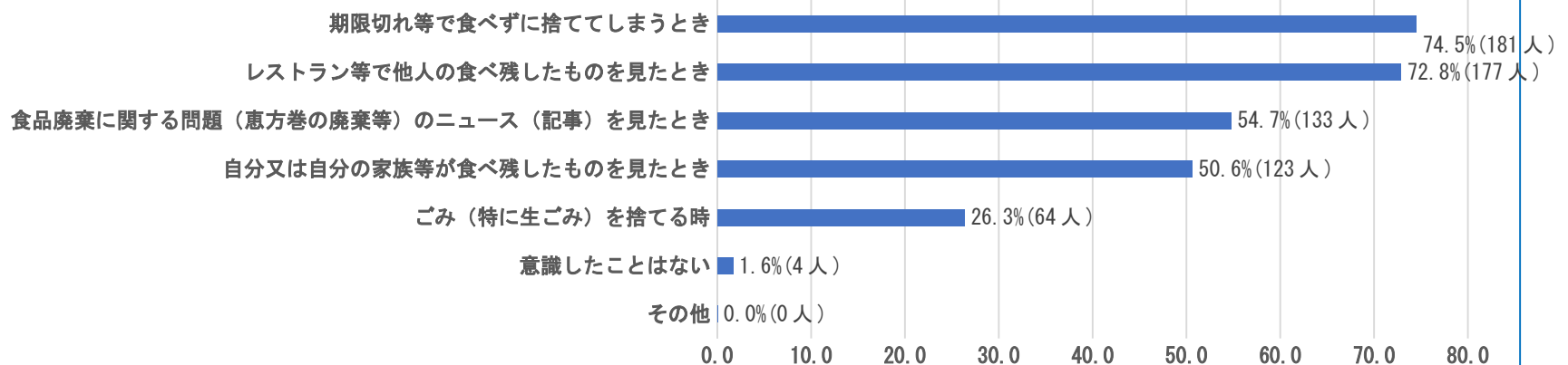
しかし、本学でも実施しているフードドライブ活動、フードパントリー活動への協力は全体的にみて関心は低い。

## Q3.あなたは、食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか？

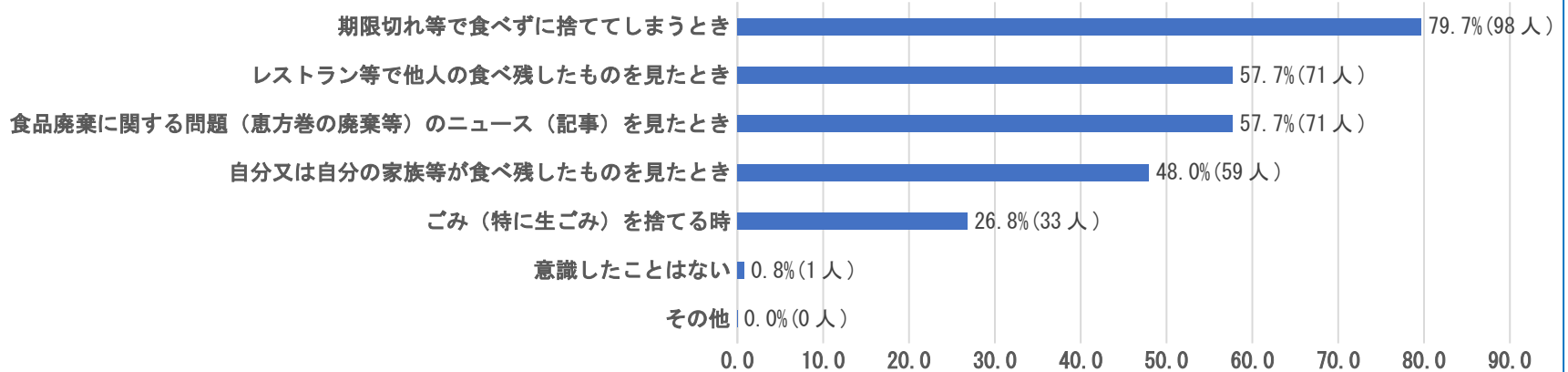
## ● 高校生



## ● 大学生・短大生



## ● 教職員



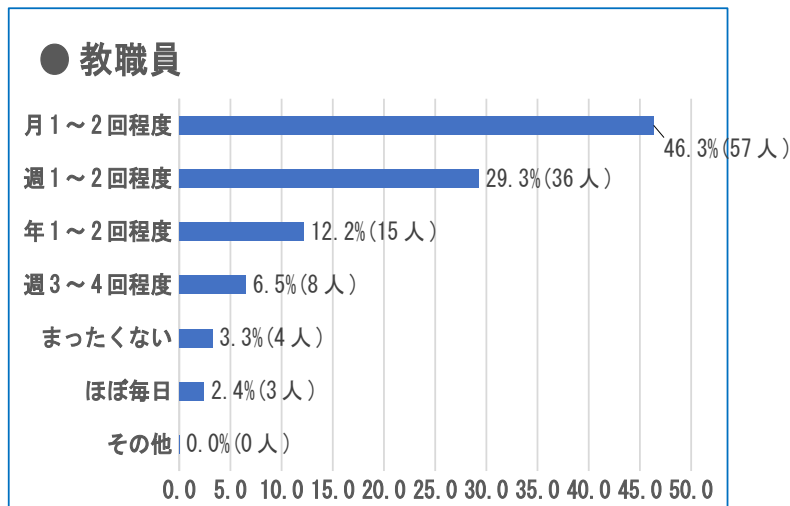
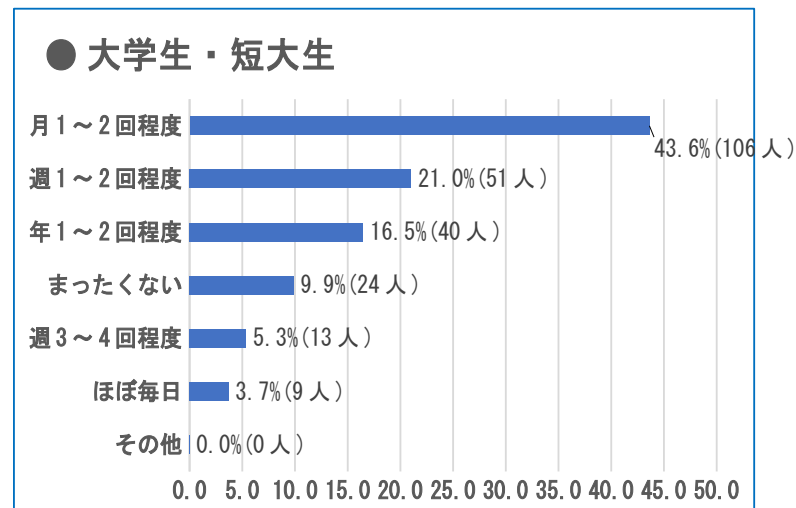
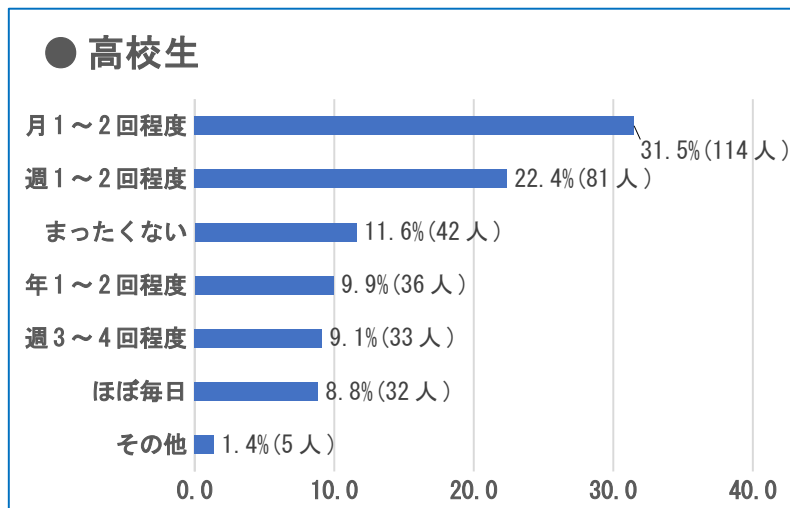
## 考察

高校生、大学生・短大生、教職員ともにまだ食べられるのに残す、捨てることについては「もったいない」という意識は高い。

しかし、生ごみを捨てる際にもったいないという意識は低い。

→「生ごみを単に捨てるのではなく、肥料等として有効活用すべき」という考えはまだ根付いていない。

## Q4.あなたが食品ロスを生み出していると思う頻度を教えてください



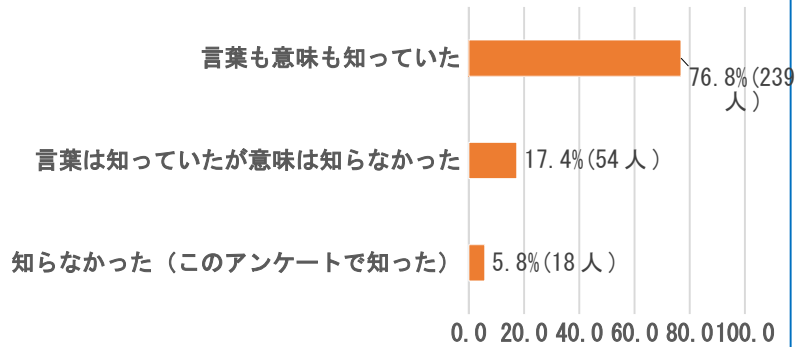
## 考察

高校生、大学生・短大生、教職員ともに食品ロスを生み出している頻度は「月1~2回程度」が最も高く、次いで「週1~2回程度」という結果であった。

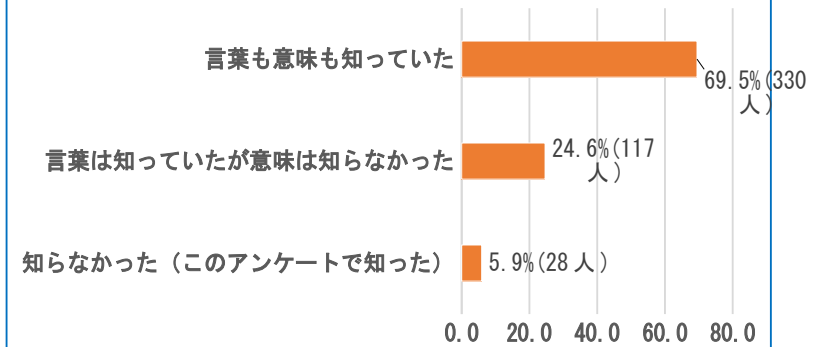


## Q1.あなたは、「食品ロス」という言葉とその意味を知っていますか？

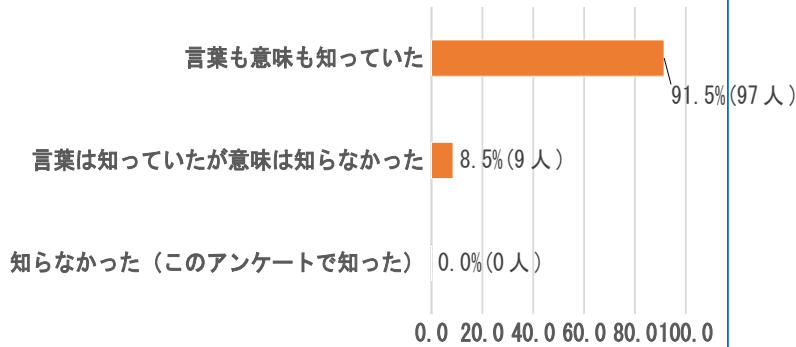
## ● 高校生



## ● 大学生・短大生



## ● 教職員

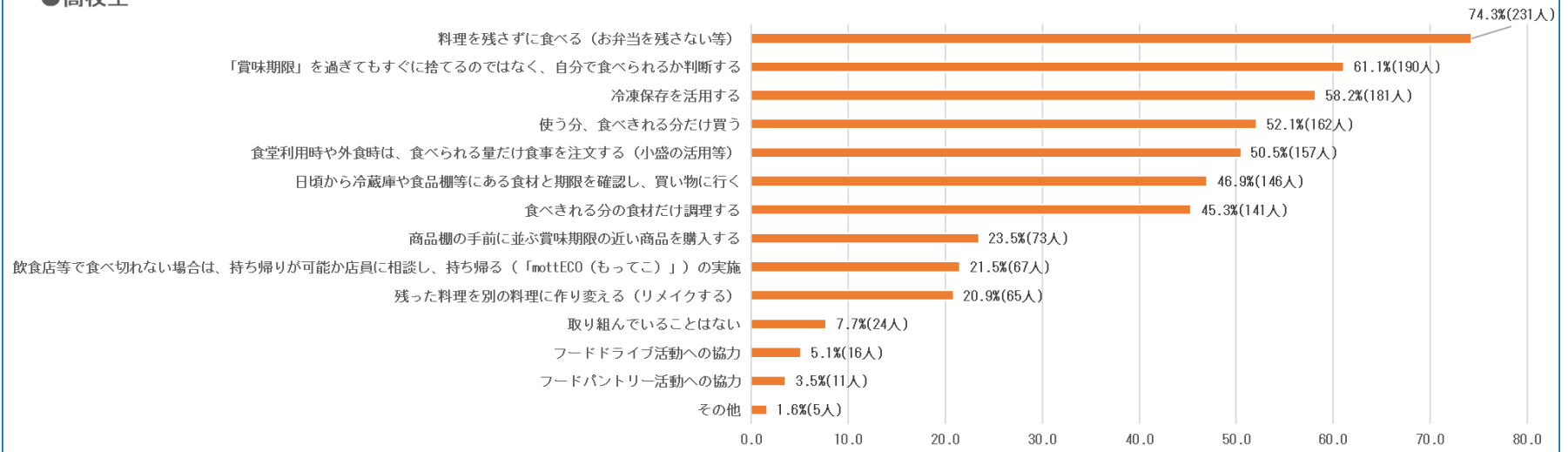


## 考察

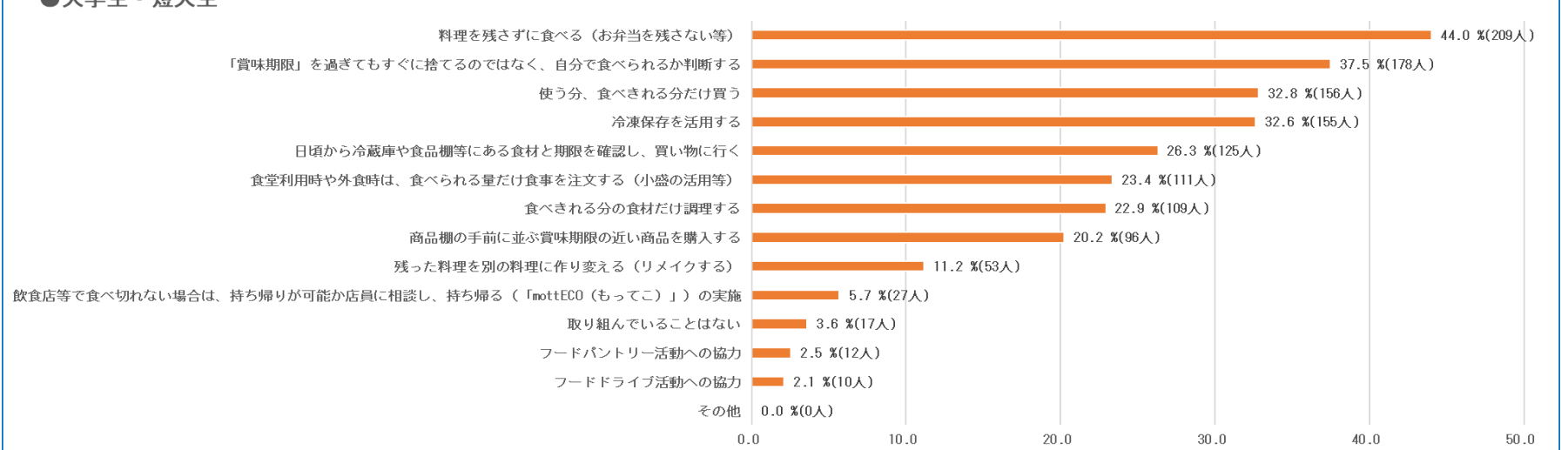
高校生、大学生・短大生、教職員ともに、食品ロスという言葉も意味も知っていた方が約7割以上（高校生76.8%、大学生・短大生69.5%、教職員91.5%）であった。

## Q2.あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか？

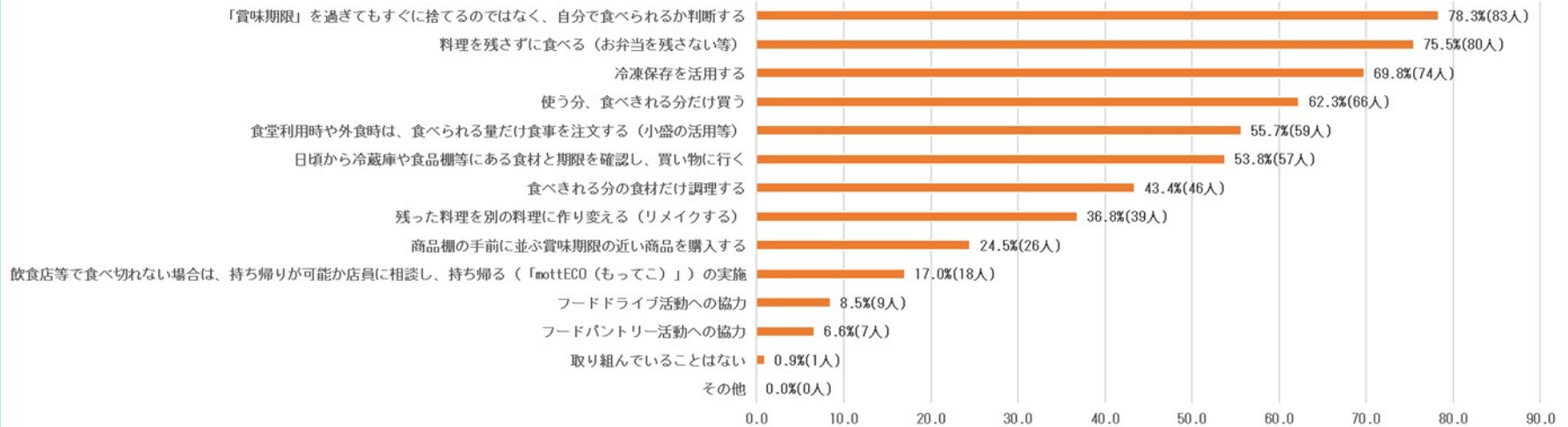
### ●高校生



### ●大学生・短大生



## ●教職員



## 考察

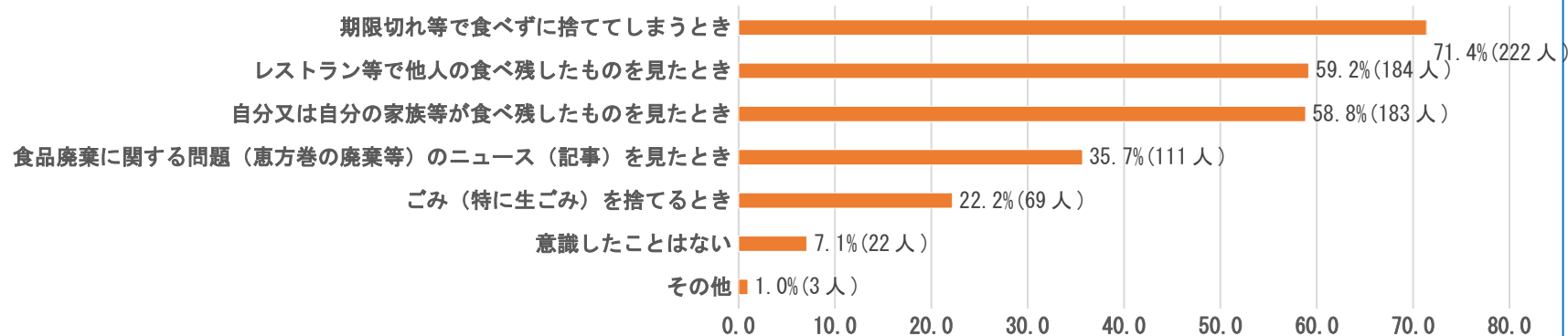
高校生、大学生・短大生、教職員ともに生活の中で手間をかけずにできそうなことは実施している。

しかし、大学生・短大生は高校生、教職員と比較し、「食品ロス」を減らすために取り組む割合が低い。

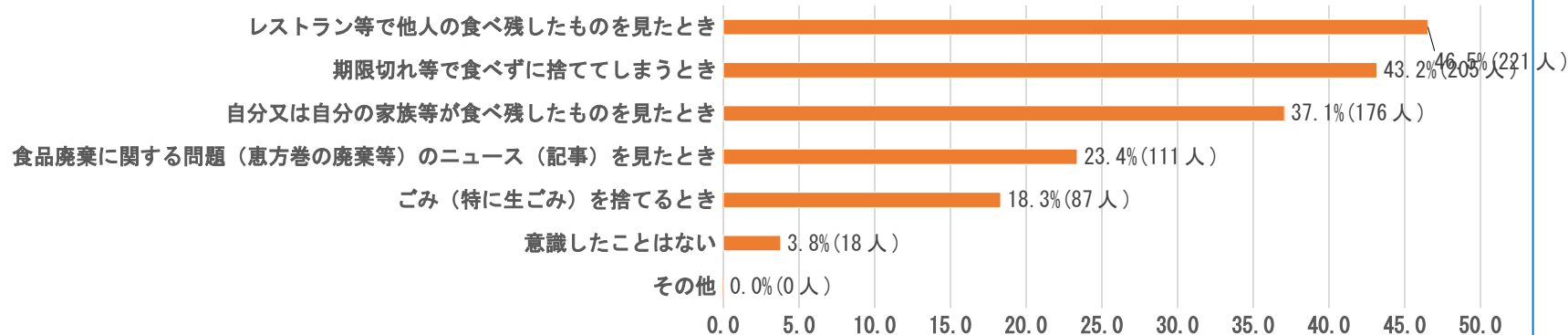
また、本学でも実施しているフードドライブ活動・フードパントリー活動への協力は全体的にみて関心は低い。

## Q3.あなたは、食生活の中で「もったいない」を意識したことはありますか？

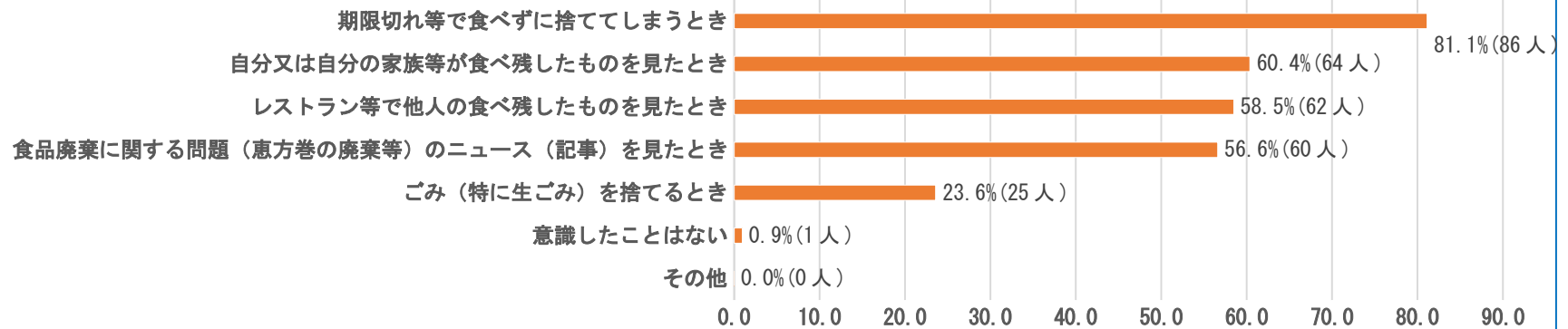
## ● 高校生



## ● 大学生・短大生



## ● 教職員



## 考察

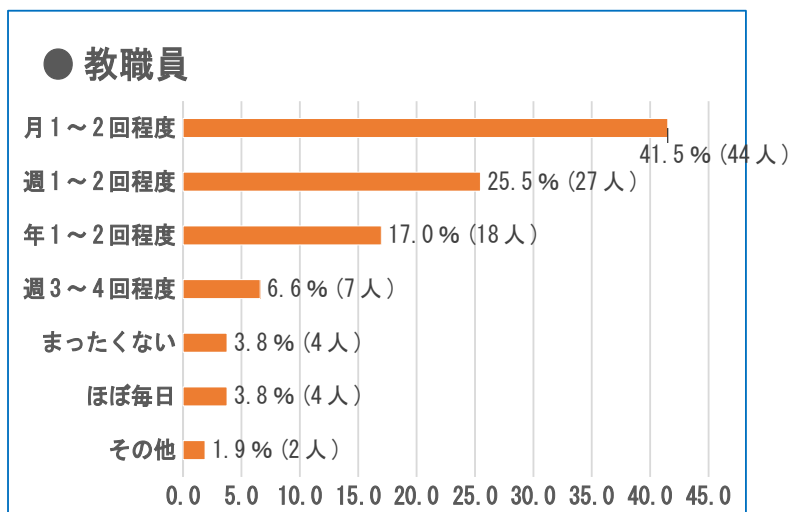
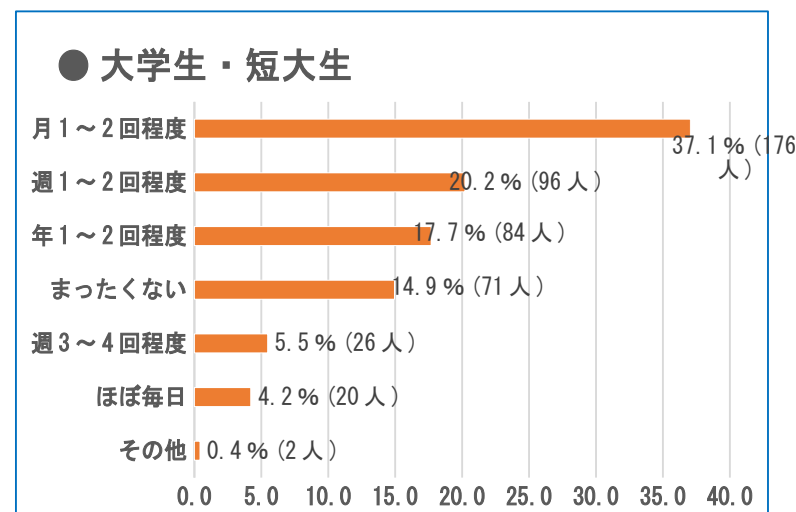
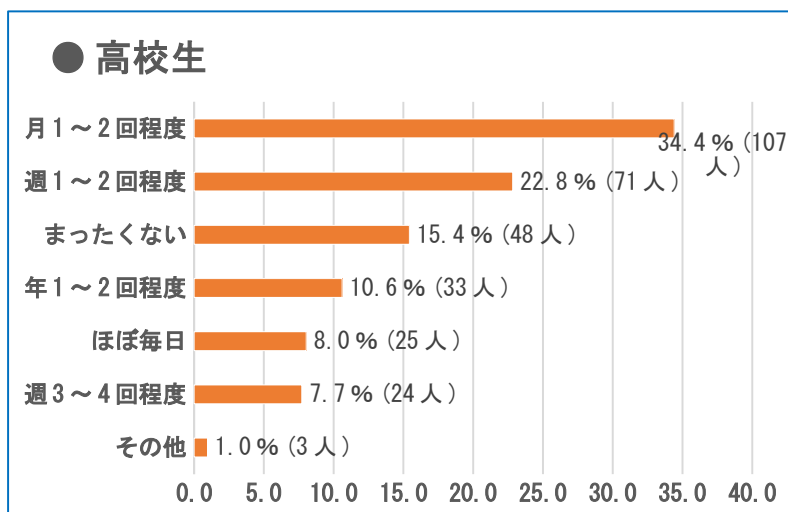
高校生、教職員は、まだ食べられるのに残す、捨てることについては「もったいない」という意識は高い。

大学生・短大生は高校生、教職員と比較し、「もったいない」という意識が低い。

また3者通じて、生ごみを捨てる際にもったいないという意識は低い。

→「生ごみを単に捨てるのではなく、肥料等として有効活用すべき」という考えはまだ根付いていない。

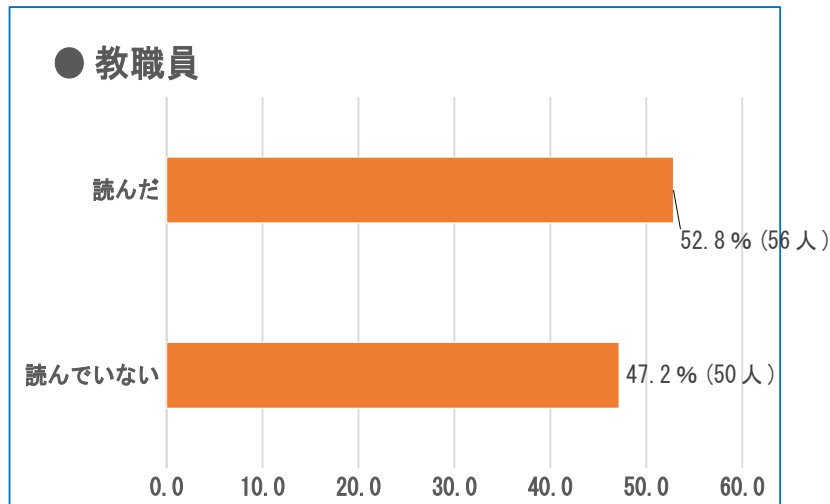
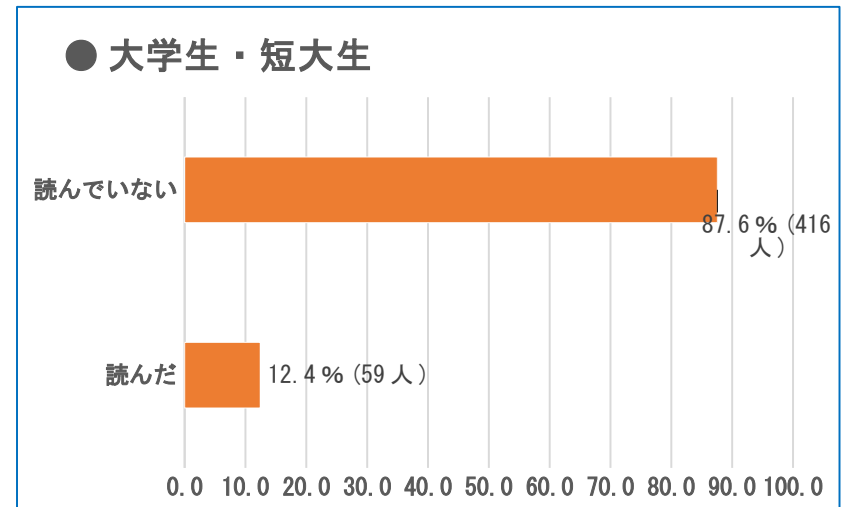
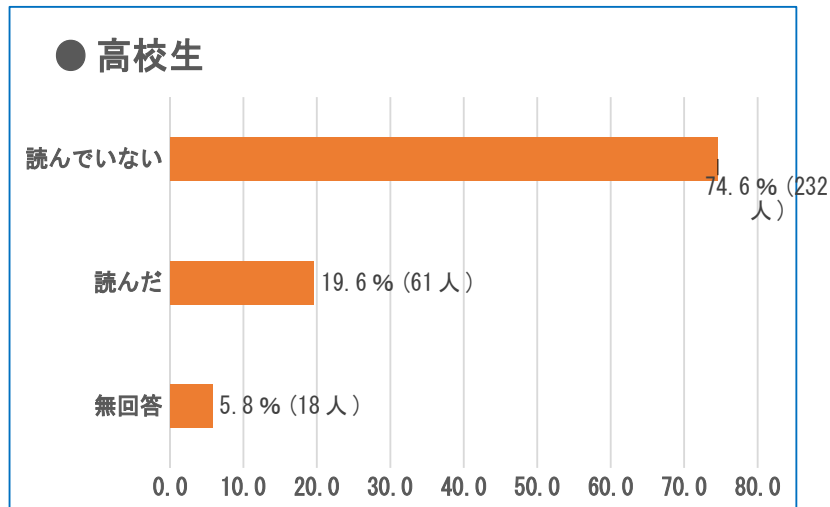
## Q4.あなたが食品ロスを生み出していると思う頻度を教えてください



## 考察

高校生、大学生・短大生、教職員ともに食品ロスを生み出している頻度は「月1～2回程度」が最も高く、次いで「週1～2回程度」という結果であった。

## Q5.2022年7月に学校から配布した食品ロス削減ガイドブックは読みましたか？

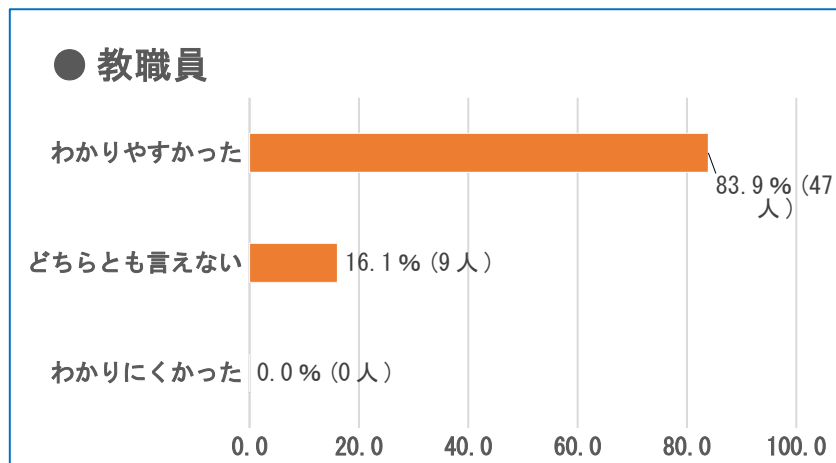
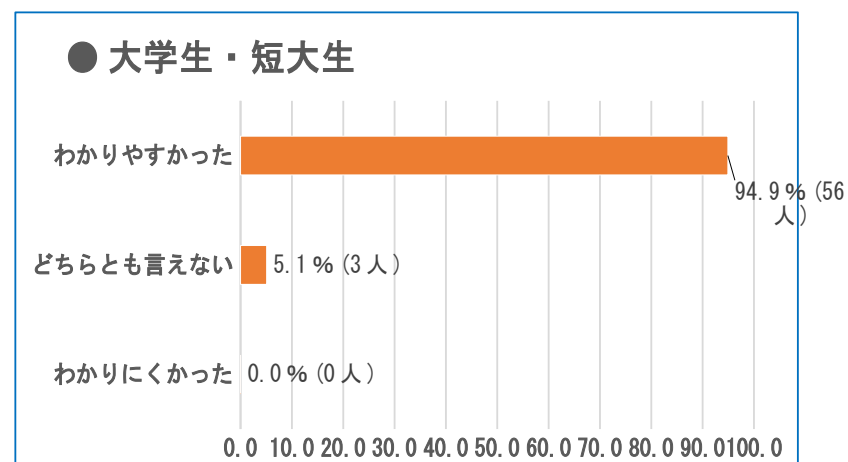
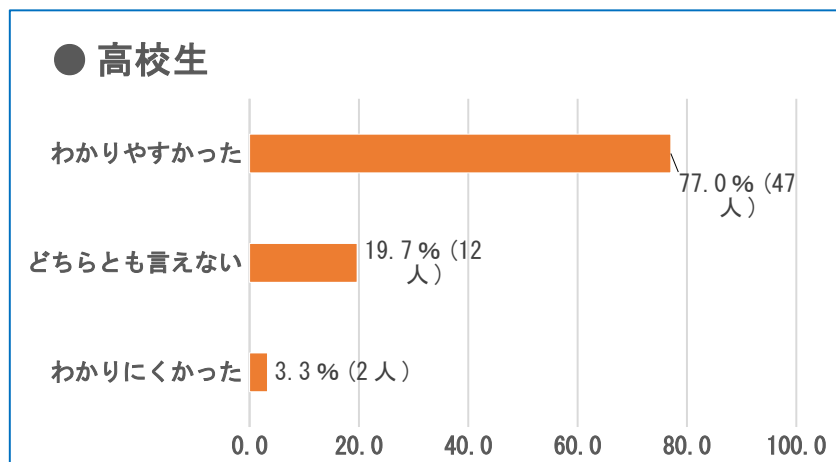


## 考察

高校生は7割以上、大学生・短大生は8割以上、ガイドブックを読んでおらず、食品ロスに関する関心が低い。ガイドブックを読んだ者は共に60人（12.4%～19.6%）程度であった。

教職員は半数以上（52.8%）の者がガイドブックを読んだという高い結果であった。

## Q6.Q5で「読んだ」と回答した方にお聞きします。内容はわかりやすかったですか

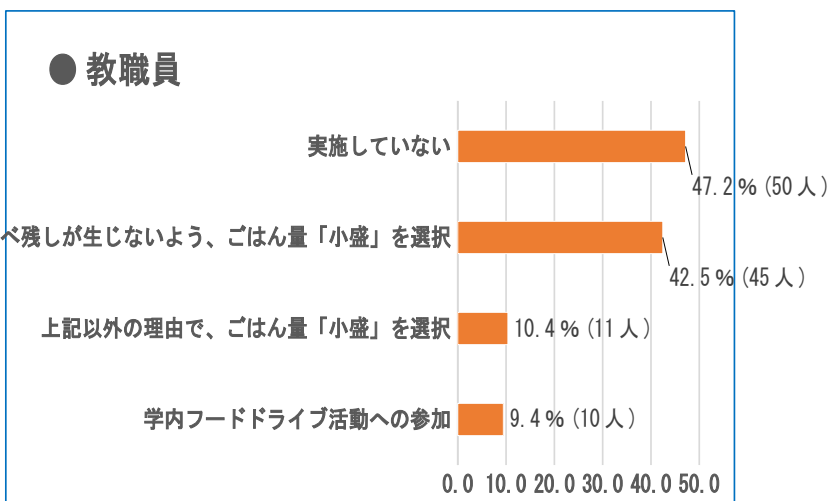
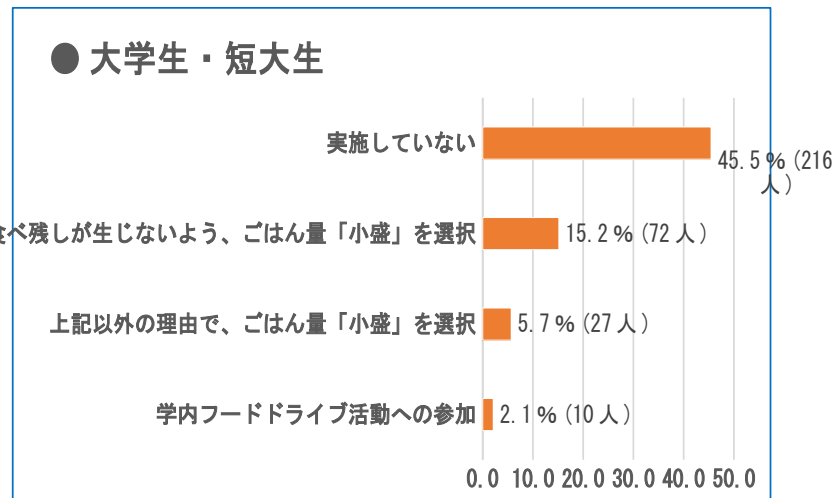
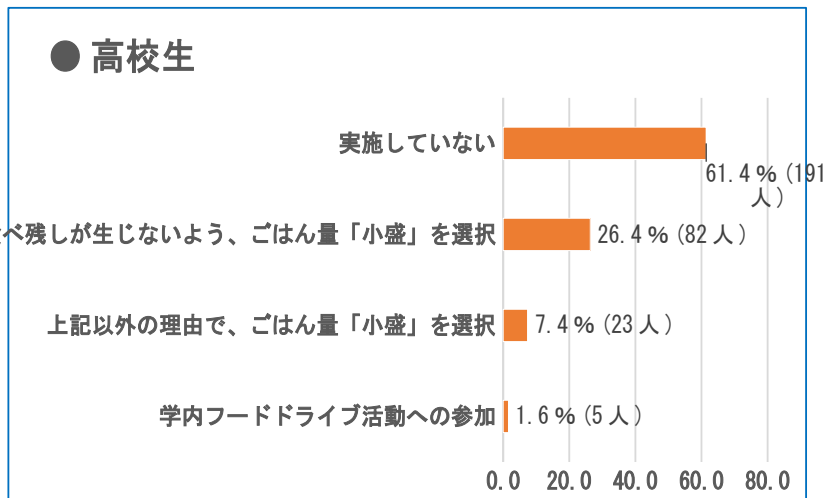


### 考察

高校生、大学生・短大生、教職員共に「わかりやすかった」という回答が7割以上（高校生77.0%、大学生・短大生94.9%、教職員83.9%）という結果であった。



Q7.2022年6月～11月に、学校内であなたが1回以上実施したことを教えてください。

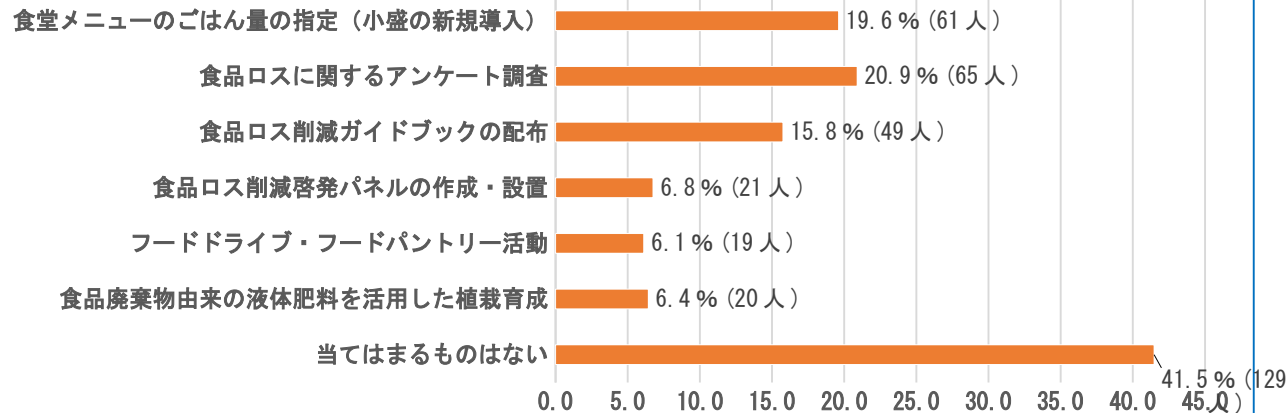


### 考察

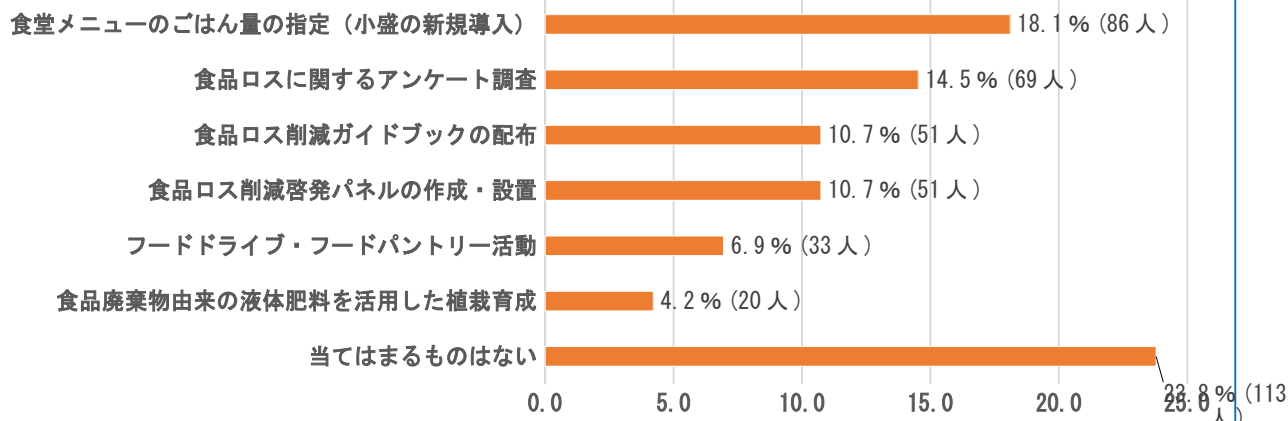
4割以上の高校生、大学生・短大生、教職員が学内での食品ロス削減の取り組みを実施しておらず、関心が低い。食べ残しを生じさせないことを意識し「小盛」を選択した割合は教職員が42.9%と高く、次いで高校生の26.4%であった。

## Q8.学校内で取り組みの中で、ご自身の食品ロスの意識づけに役立ったと思うものを教えてください。

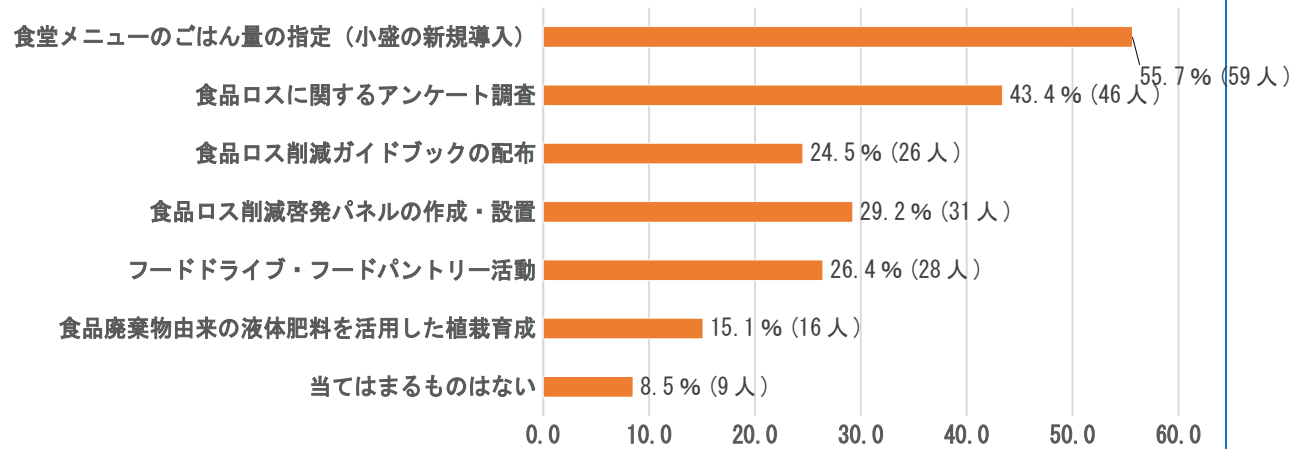
### ● 高校生



### ● 大学生・短大生



## ● 教職員



## 考察

・高校生、大学生・短大生、教職員で共通し、かつ10ポイント以上獲得した取り組みは以下のとおりである。次年度も継続して取り組むべき有効策であると考え。

①「食堂メニューのごはん量の指定(小盛の新規導入)

高校生19.6%、大学生・短大生18.1%、教職員55.7%

②「食品ロスに関するアンケート調査」

高校生20.9%、大学生・短大生14.5%、教職員43.4%

③「食品ロス削減ガイドブックの配布」

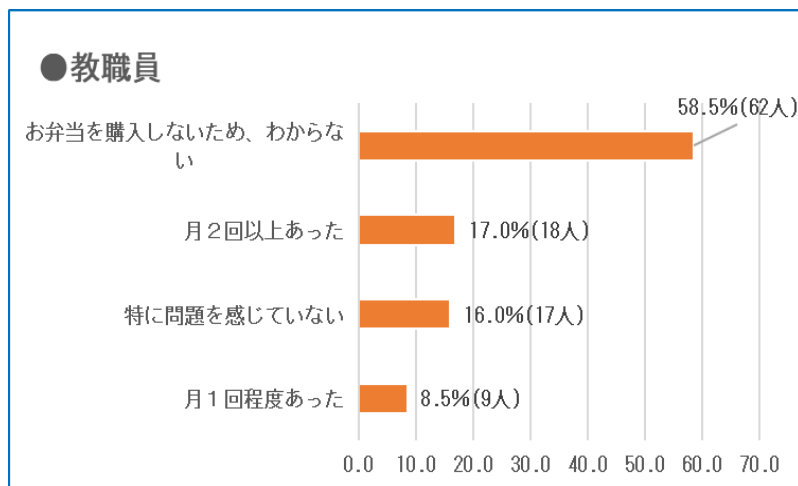
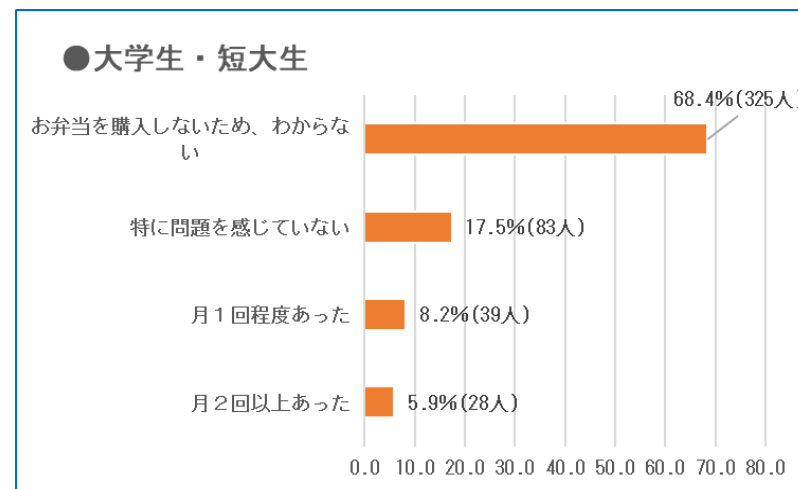
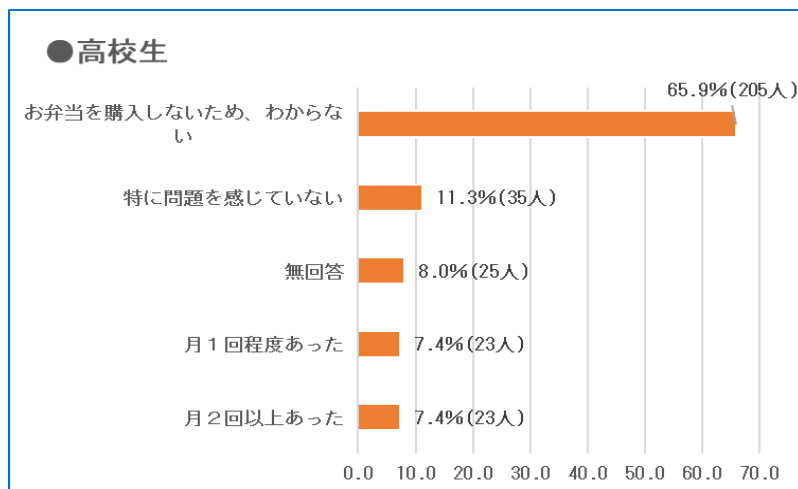
高校生15.8%、大学生・短大生10.7%、教職員24.5%

・学生、生徒の中では、「フードドライブ・フードパントリー活動」(6.1%～6.9)と「食品廃棄物由来の液体肥料を活用した植栽育成」(4.2%～6.4%)は意識づけに役立ったものとして順序は低く、学生、生徒自身に関わる取り組みが意識づけにつながるものと考えられる。

①「フードドライブ・フードパントリー活動」→対象が限定

②「食品廃棄物由来の液体肥料を活用した植栽育成」→見る機会が少ない

Q9.学校では登校予定の学生数・生徒数に応じて、売れ残りの削減を目的に、お弁当の用意している数を調整しています。2022年6月のお弁当販売再開以降、お弁当が売り切れていてお困りのことはありましたか。



### 考察

高校生、大学生・短大生、教職員ともにお弁当を購入しないため、わからないという回答が多数を占めている。弁当売り切れで困っていた者は5.9%～17.5%いた。